

## 保育実践研究センター

# 公開研究会で100人が学ぶ

「保育実践研究センター  
公開研究会」が11月19日、  
ふじみ野キャンパスで開か  
れました。

「特別支援教育における  
幼小連携を考える」をテー  
マに、まずはふじみ野幼稚  
園の佐藤靖枝教諭が、発達  
障がいのある園児への対応につ  
いて、実践を報告。対象児  
の情報を進路先に提供し、  
連携して共に育ちを見守る  
ことの大切さについて触れ  
ました。

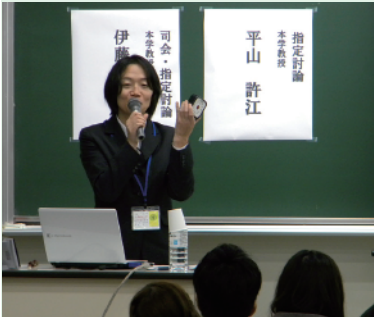
続いて、川崎市立幸町小  
学校の木村司総括教諭（特  
別支援コーディネーター）  
が、小学校入学後の特別支  
援の現状や課題などについ

て話しました。同校では、  
入学前に園児と児童の交流  
会を実施。入学後には、給  
食や掃除の手伝いをする児  
童との触れ合いを行い、新  
しい人間関係構築の難しさ  
に対応。保護者との連携を  
密にし、教育相談等を通し  
て「これだけは外せない」

というゴールを共通項とし  
て持つことの大切さにも触  
れました。校内体制を作る  
には、対象児童の実態の共  
通理解が必要であることも  
強調しました。

それらを受けて、人間学  
部の伊藤英夫教授と人間学  
研究科の平山許江教授が討  
論し、キーポイントを明確  
にしました。その後、参加  
者約100人は、グループ  
に分かれて討論し、積極的  
に発言。

に発言。



小学校での特別支援に  
ついて語る木村教諭

実際に特別支  
援教育にあたる  
教員だけではな  
く、広く保育分  
野に関わる人も  
参加した公開研  
究会には、熱い  
思いが満ち溢れ  
ました。